

生産コスト高が生産量の増加を抑制する可能性

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2023年9月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会9月会合がビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、EUの近況として、①2023年1～7月の生乳生産量は前年比0.8%増加したこと、②平均庭先(牧場出荷)乳価の下落の動きは鈍化していること、③平均乳製品価格はわずかに下落し、乳製品の在庫水準は安定していること、④消費者の節約志向が高まっていることなどが報告された。また、世界の近況として、主要輸出国・地域の生乳生産量は2023年1～7月に0.2%増加したことを報告し、生産コストは酪農家や乳業メーカーにとって依然として高く、2023年下半期の世界全体の生産量の伸びを抑制する可能性があるとしている。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った。)

MMO 経済委員会の第47回会合は、2023年9月25日に、以下のミルクサプライチェーンを構成する組織の専門家が参加してビデオ会議で開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会:生産者を代表)
- EMB (欧州酪農委員会)
- ECVC (ピア・カンパシーナの欧州組織)
- CEJA (欧州青年農業者協議会)
- EDA (欧州乳業協会:乳業者を代表)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合:乳製品貿易を代表)
- Eurocommerce (欧州商工会:小売業を代表)

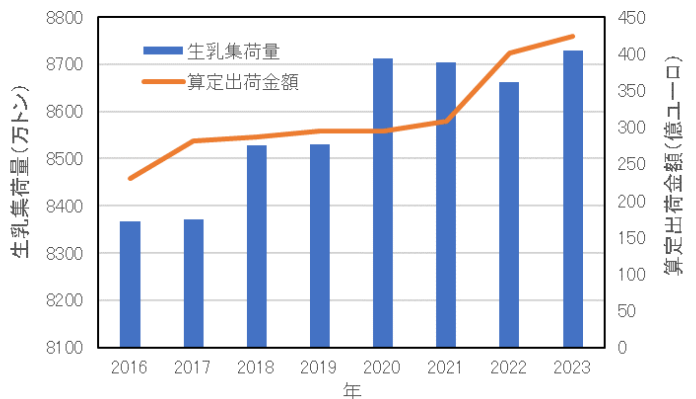
会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

EUの2023年1～7月の生乳生産量は前年同期比0.8%増加

EUの牛の生乳集荷量は2022年9月以降増加を続けている。2023年1月～7月の生乳生産量は前年同時期比0.8%増加した(図1)。7月までに、ドイツ、ベルギー、オランダ、ポーランドを含む14か国の加盟国が生乳出荷量

の増加を報告した。他の主要生産国では、フランス、イタリア、アイルランドで減少している。2023年1月～7月のEUの生乳生産の算定出荷金額は、2022年に比べて5.6%高く、2021年に比べて37%高かった(図1)。

図1:EUの1～7月の生乳生産量と算定出荷金額



ルクセンブルクの数値は非公開のため、含まれていない。

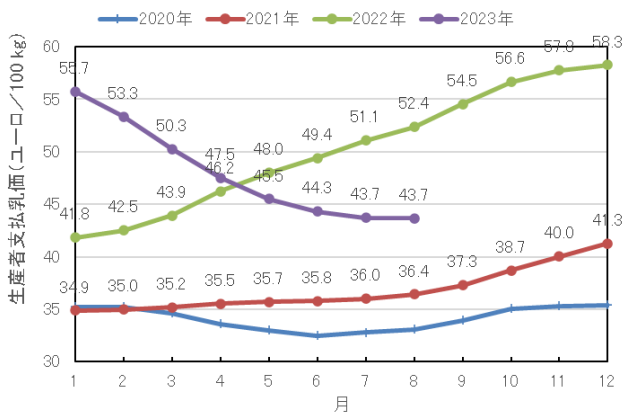
出典: MMO economic board meeting report - 25 September 2023(*1)を基にJミルク作成

EUの脱脂粉乳の生産量は2023年1～7月期に減少した。その他の乳製品では、全粉乳、バター、チーズ、濃縮乳、飲用乳、発酵乳、クリームが生産量が増加した。

EU の平均庭先乳価の下落の動きは鈍化

EU の平均庭先(牧場出荷)乳価は下落を続けているが、下落の動きは鈍化している(図2、8月は前月からほぼ横ばい)。2023年に入ってから約25%下落した。2023年7月には1.3%下落して(2023年6月との比較)、1キロ当たり43.7ユーロセントとなり、1年前より14.4%下落したものの、依然として近年の平均を上回っている(5年平均比+20.2%)。

図2:生産者支払乳価(EU加盟国平均)



出典: EU historical prices. Milk Market Observatory.

2023年7月に集荷された生乳の3.9%が有機であった。EUの有機生乳の平均価格は1キロ当たり51ユーロセントであった。有機の価格プレミアム(割り増し)は上昇している。

飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は、記録的な高水準に達した2022年4月以降は下落している。

EU の平均乳製品価格はわずかに下落し、乳製品の在庫水準は安定

EUの平均乳製品価格は、脱脂粉乳とホエイパウダーを除き、先月はわずかに下落した。エメンタルチーズ(+2%)を除き、全ての価格が前年を下回っている。EUは、チェダーチーズで最も価格競争力があり、バターでオセ

アニアとほぼ同等の価格競争力がある。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品量に基づくEU在庫レベルの評価では、脱脂粉乳の在庫量は安定し、1年前よりわずかに減少しているが、いまだ正常な水準と考えられる。バター在庫量は2022年11月以降増加して、生産量も増加しているため近年より高い水準にある。2023年に入ってから、チーズの在庫量は6万トン増加したが、チーズの市場は良好な状態でバランスが取れている。

世界の主要輸出国・地域の生乳生産量は2023年1~7月に0.2%増加

2023年の最初の7ヶ月間、主要輸出国・地域(オーストラリア、EU、米国、英国、ニュージーランド、アルゼンチン、ウルグアイ)の生乳集荷量は全体で+0.2%増加した。6月から7月にかけては、特にニュージーランド、米国、アルゼンチンで生産量の伸びが鈍化している。

2023年上半期の世界の乳製品輸出量は、主に脱脂粉乳と全粉乳の増加により、1.9%増加した。主要輸出国(EU、ニュージーランド)の輸出シェアは、米国や小さな輸出国を引き換えにして増加した。東南アジアの需要は低迷しており、中国の購買動向は依然不透明である。脱脂粉乳と全粉乳への強い需要が、アルジェリアで観測された(それぞれ+51%増と+10%増)。EUの輸出は好調である。中国、英国、アルジェリア、米国、インドネシアが、2023年上半期のEUの輸出先上位5か国であった(シェア39%)。

EUの消費者の節約志向が高まる

インフレに直面して、消費者は積極的にお得なキャンペーンを探し、より安価な食品に切り替えている。消費者は、生鮮食品、有機食

品、高級品の購入を減らしている。より健康的な商品を手に入れるために高い値段を払う消費者は減っている。プライベートブランドの商品も、ディスカウントショップと同様に市場シェアを伸ばしている。

生産コスト高が世界の牛乳乳製品の生産量の増加を抑制する可能性も

欧州委員会は、最新の短期的なEU乳製品市場見通しを発表した。2023年のEUの生乳出荷量はわずかに増加する可能性がある。2022年よりも良好な天候が、生乳の堅調な集荷と乳固形分の増加に寄与している。EUのチーズとホエイの生産量は、生乳の堅調な集荷の恩恵を受け、2023年のEU輸出量は増加する可能性がある。

このMMO経済委員会では、窒素沈着量を削減するために畜産を自主的に閉鎖する畜産農家への補償を目的としたオランダの2つの制度(LBVとLBVプラス)の説明が行われた。総予算は14.8億ユーロである。90戸の酪農場がLBVへの参加に関心を示している。

世界的な貿易の流れが改善しているにもかかわらず、需要に影響を及ぼす景気の逆風により、全体的な地合いは依然として弱含みである。生産コストは酪農家や乳業メーカーにとって依然として高く、2023年下半期の世界全体の生産量の伸びを抑制する可能性がある。

参考資料:

- 1) https://agriculture.ec.europa.eu/system/files/2023-09/mmo-report-2023-9-25_en.pdf MMO economic board meeting report – 25 September 2023. European Commission.

(資料閲覧:2023年10月6日)

(担当:Jミルク 国際グループ 新光一郎)